

1 文献名
『百年誌 尾鷲市立古江小学校』
2 学校名
古江小学校
3 災害名
昭和 19 年（1944 年）昭和東南海地震
4 記述の概要
（1）雨や風、地震などの様子
熊野灘一帯に大津波が来襲し、賀田湾にも押し寄せてきた。（P147）
（2）学校内や地域の被害の状況
古江でも海岸道路の民家は浸水したが、特に賀田町において大きな被害が出た。（P147）
（3）復旧の様子
（4）体験談
「国語」で「稲むらの火」を学び、刈りとった稲を焼いて津波から多くの人命を救った事を思い出し、一目散で竹やぶの方へ逃げた。（P227）
（5）教訓など
（6）その他

1 文献名
『百年誌 尾鷲市立古江小学校』
2 学校名
古江小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
（1）雨や風、地震などの様子
（2）学校内や地域の被害の状況
古江においても岩壁の損傷は著しく、船舶等に大きな被害があった。（P177）
（3）復旧の様子
（4）体験談
（5）教訓など
（6）その他

1 文献名
『百年誌 尾鷲市立古江小学校』
2 学校名
古江小学校
3 災害名
昭和 46 年（1971 年）三重県南部集中豪雨
4 記述の概要
<p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>9 月 10 日午後 4 時 20 分頃、間断なく降り続いた雨は大音響とともに山津波を誘発し、未曾有の大事故となった。</p> <p>真谷、おぶこ、おこ川の三地域に起きた土砂崩壊は言語に絶するものがあった。（P201）</p>
<p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>幅 1～1.5m の「おぶこ川」は、広い所で 50m 近い幅で濁流が流れ、新築間もない住宅は、巨岩や大木に押しつぶされた。</p> <p>濁流は、おぶこ川の下流で逃げ場を失い、その水は小学校校庭にまであふれ、グラウンド一帯は湖と化した。</p> <p>死者 13 名、負傷者 2 名、全壊家屋 8 戸、半壊家屋 4 戸、床上・床下浸水無数という悲惨な状況であった。（P201）</p> <p>4 年生 1 名が死亡した。（P47）</p> <p>9 月 17 日には、漁協東側広場に特設祭壇が設営され、亡くなった 13 名の合同葬儀が行われた。（P202～203）</p>
<p>（3）復旧の様子</p> <p>全町に新開地一帯の被害を知らせ、町民あげての救出作業を開始した。</p> <p>県警機動隊をはじめ被災自衛隊 560 名が投入され、海上保安庁による海路の救助や、近隣各町民の援助による復旧作業が行われた。（P201）</p>
（4）体験談
（5）教訓など
（6）その他